

マネージメント情報

※ 分離精液(X 精液)を使ったバージンフラッシュ

昨年 11 月から未経産牛に分離精液(X 精液)を使った採卵を行っています。今回はその中間報告をします。当初は成牛で行っていましたが結果が思わしくなく、昨年カナダで研修した際に分離精液を使うのなら未経産牛というアドバイス(結論?)をいただき実施しています。

合計 13 頭実施し、右の数字がその結果です。
平均回収卵が 8.4 個、平均正常卵数が 3.2 個で、成牛と比べると正常卵数が 1.2 個多くなっています。また、A,B の高ランクの受精卵が約 80%となっていてこのあたりも成牛の結果と大きく違ってきます。ちなみに費用は薬品代、採卵時の技術料、精液代金を含めて約7万円程度ですので、受精卵 1 個あたりの価格は 22,000 円ほどになります。

平均回収卵数	8.4
平均正常卵数	3.2
A ランク	40.5%
B ランク	38.1%
C ランク	16.7%
D ランク	4.8%

一般的に販売されているホルスタイン判別精液での

体外受精卵が 20,000 円、体内受精卵が 70,000~80,000 円ですので、リーズナブルなコストかな?と考えています。

私が考えている判別受精卵の利用方法は成牛に移植するということです。

現在ホル雌の価格は異常な程高騰しています。初生で 15-20 万円、10-12 ヶ月の育成でも 25-35 万円、初任は 50 万円を超えています。

この状況がこのまま続くとは思いませんが、酪農家は余るほどホル雌を持っていてなんぼです。特別な牛を除いて、育成牛に限定して初回あるいは 2 回目までの授精には判別精液を、成牛については通常の授精+今回紹介した判別受精卵の移植の利用という事で、雌牛を増やしていったらどうか?と考えます。

また、昨年 12 月号のM情報で当社授精師の太田さんが紹介した、リピーブリーダーへの F1 体外受精卵の追い移植を取り入れていけば繁殖の問題は改善されていくのではと思います。

今回紹介しましたバージンフラッシュに興味のある方はいつでも私まで問いあわせて下さい。受胎率については、まだ整理していませんので次回のM情報で紹介したいと思います。

- ・ 早いもので今年も 1/3 近くが経過しました。まだ草地には至る所に雪が残っていて、いつになったら畑に入れるのやらと気をもんでいます。ぐたばたしてもしようがないので、ぐっと我慢というところでしょうか。先週用事があり帯広に行ってきましたが、阿寒湖を過ぎ足寄町に入ったとたん、そこは春、畑には雪は全く普通に 4 月の十勝の風景がありました。いろんな意味で根室と十勝は違うんだなと改めて感じました。
- ・ 今年度は増員もなく現状の体制での THMS ですが、新人獣医師も 2 年目を迎えそれなりに成長し、唯一人の女性獣医師の菅原明日香も 4 年目に突入り若手の頑張り期待したいと思っています。みなさんにはまだまだご迷惑をおかけする場面もあろうかと思いますが叱咤・叱咤・叱咤しつつも 3 回に 1 回くらいは激励という感じで温かく対応していただければとお願いします。
- ・ 4/5 は昨年急逝された広沼英次さんの一周忌でした。本当に一年は早いものです。お線香をあげに伺いましたが、今でもどこかからひよっとあらわれそんなそんな気がしています。広沼さんだったら、今どんな酪農を語ってくれるのかなあ~